ひろがる図書館友の会

子供の読みもの向上、親子利用型も
小合と金津に分会設置
普及にお寺、タバコ屋の協力を期待

子供たちに読書のよろこびをあたえるとともに更に家庭の大人にもそれぞれひろめるため図書館友の会は今春発足満六カ月を経たが、いまでは子供たちの読みものもぐんと向上し、大人たちの間にも次第にひろまり親子で利用するものも多くなって来た。図書室では読書シーズンをむかえ入会するものもふえ、小合・金津に友の会分会を設けるなど積極的な活動をはじめた

図書館友の会ができてはじめて家庭や地域でやっていこうという気運が高まってきたことは、喜ばしいかぎりである。

いままでは子供たちの読書は、ともすると、やわらかい娯楽を主とした貸本屋の感覚しかなかったが、この点は、今後、図書館の本と、やわらかい娯楽を主とした貸本屋の本を子供にあたえてきた。

初めは講談、冒険物だけに興味をもっていたものが、六カ月後の近頃では、早くも科学的読物、伝記物、歴史物をもっと多く備付けてほしいと要求するように変ってきた。自分の生活には科学、伝記物、おとうさん、おかあさんたちに、読書のよろこびをあたえるもっと広い本の世界があることを知らせるため、今まで「かたい」と云われていた図書館の本を、やわらかい娯楽を主とした貸本屋の感覚をもった中間の本を子供にあたえてきた。

いま、この傾向は、ますます強まってきている。

この夜見子母神本堂全部が開放され、招待者と約百名がギッシリ会場をうめ、ムンムンとした雰囲気のなかで、司会の挨拶と来賓の祝辞にはじまり全会員の唱と踊りで老人達を涙させ、終りに老人たちも曲ったり腰を伸ばして踊りの輪に入るなかまであった。これが今後の婦人会活動に大きなプラスになることは期待される。

結核予防週間は来る十月二十五日から三十一日まで開かれるが、さきに政府で作った結核実態調査の結核患者数は全国で約三百万人の多きを数えたが、とくに青少年層から多く発見されている為大部分の人は結核に億する。

当日五月末患者数は七百二十四名となっている。屈出または調査に現われた